

地域振興と水上スポーツシリーズ

水上スポーツの指導専門職(週末副業)を創ろう

チーム学習の形成と水上スポーツ専門職の意義

宮津・伊根地域版

1. 308W

NPO学習開発研究所

(株)ワークアカデミー

この学習材の音声は「声の職人」のソフトで合成されたものです

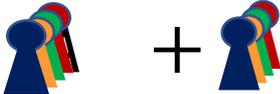
学習を始める前に

- この講座の進行は、学習者の学ぶスピードに合わせていることを目指している。
 - そのためページ毎にいったん停止するようになっているが、次のページに進むことは学習者が決める。
 - 停止の操作ができるのは3秒間で、それを過ぎると自動的に次に進む。
 - スマホでは画面の下の部分に触れると映像のタイムラインが表示される。
 - 表示ラインの一番左に再生記号▶が出ておれば映像が停止している。
 - その記号▶に触れると映像は進行してIIが表示される。
 - 再び停止したいときはIIに触れると映像は停止して▶が表示される。
 - PCであれば画面の下に映像のコントロールパネルが表示される。
 - この学習材は、映像資料(YouTube)、PDF資料、印刷資料(PDFからA4版の冊子様式で印刷する)で構成されている。
- 2
- 地域振興のための水上スポーツの指導者育成を目指して他の人とチームワークとして進行するので3名以上で学ぶことが必要です。
 - チームで課題に取り組むことを実体験する。

チームの構成とクラス編成

- 参加人数によってつぎのような人数でチームとクラスを構成する

- 3-4名 3名  4名 

- 6-8名 6名 =  7名 =  8名 = 

- 9-12名 9名 =  10名 =  11名 =  12名 = 

- 13-15名 13名 =  14名 =  15名 = 

第1講の内容

- 第1講はつぎのような内容とおおよその所要時間で実施する。

• 1部	学ぶコミュニティを創ろう	約1時間10分
• 2部	水上スポーツを理解しよう	約50分
• 3部	学びを組織化しよう	約40分
• 4部	宮津・伊根地域のスポットの魅力	約10分
• 休憩時間		全体で10-15分
• 合計		約3時間
- 以上のような内容についてチームで学ぶ。
- 時間配分は各チームの判断に任されている。

1部 学ぶコミュニティを創ろう

- 地域振興にとって水上スポーツの可能性は大きい。
- 漁村などでは優れた指導者や同じ思いの人が身近に得られない。
- 海浜地域に都市部からの愛好者を迎え入れる体制を準備する。
- 地域の人たちと協力して水上スポーツのポイントを整備する必要がある。

- 都市部の水上スポーツの愛好者でその知識と技術を提供できる人
- 地域から都市部に出て行っている人で地域の活性化に関心のある人
- 現地で地域振興に励んでいる人
- その指導や支援活動をしている人

- 以上の人がお互いに学びあうことが重要である。
- 専門職の知識、技術、価値観を分かちあえるためには、活動が個人的なものではなく、組織として実現していることが重要だ。

- 学ぶコミュニティを創ることが重要である

地域振興のために独り学びと共に学ぶを

- 地域振興は独りでできるものではないので、独りで学んだり友達と一緒に学ぶことができる学習環境が必要である。
- さまざまな学習材が国内外でインターネットのWebやYouTubeを利用して公開されている。
- メディア学習材を利用してお互いに協力することができるので、自分から積極的に学ぶだけでなく、仲間と共に学ぶことが大切。
- チーム討議を活発にするためには、お互いの名前を覚えること、お互いの長所を知ること。
- 仲間を理解するために「名覚えゲーム」と「長所紹介」を行う。

名覚えゲーム

- 面識のある人の集まりの場合はフルネームで呼びます。

- ①司会あるいは音読係がつぎの文章を読んで下さい
- ②メンバー全員が輪になるように向かい合って座ります。
- ③最初の人が、「わたしの名前はAです。」と自分の名前を言います。
- ④まず右回りで隣に座っている人が、「私はAさんの隣のBです。」と最初の名前をいってから自分の名前を付け加えて言います。
- ⑤その隣の人はい更に自分の名前を付け加えていきます。「Aさんの隣のBさんの隣のCです。」
- ⑥このように順次、最初の名前から始めて、自分までのすべての人の名前を言ってから、自分の名前を付け加えます。

最後の方は全員の名前を覚えることになります。最後まで名前覚えが成功したら、次は左回りで最後の人からで同じ事を繰り返します。したがって今度はAさんがすべての人の名前を言わなければなりません。



長所紹介

- このゲームではお互いの長所を知ることだけではなく、チームで学習するときの役割分担を決めたりお互いに支援するときに関与します。
- クラス内で2人1組になります。奇数の人数のときは1組だけ3人が組みになります。
- 自分の相手の人をチーム全員に紹介しますが、長所をできるだけ聞きだすようにインタビューを工夫しましょう。そのために相手のプロフィールをよく聞きだし、不明なところは相手の人に確かめましょう。 適当な時間のときにインタビューを交代します。
- チーム全員が理解しやすいように工夫して順番に相手の人の長所をチーム全員に紹介しましょう。
- 今日の学習では必要に応じてメンバーの長所をチームの役割に活かして下さい。

二人がペアになって長所紹介のための
インタビューを始めましょう

映像を止めて下さい。
目安はひとり3分です。

それがすんだら相手の人の長所を
クラス全体に紹介しましょう

お互いに理解するための名前と長所

- これから学習するにあたって、つぎのことをメモしておきましょう。
- 同じチーム(3-4人)の人の名前と長所と他のチームの人の名前

	名前	長所
①		
②		
③		
④		

- チーム以外の人で覚えている名前

①		②		③		④		⑤	
⑥		⑦		⑧		⑨		⑩	
⑪									

自分から主体的に学んでみよう

- 水上スポーツが専門職として社会に貢献できる。
- 技術と知識のレベルを向上し、健全な理念をもってお互いに切磋琢磨できる組織が必要である。
- 新しい内容を一人で主体的に学ぶためにはかなりの決心が必要である。
- 友達、同僚など身近な人と一緒に学ぶと、楽しく学ぶことができ、難しい問題に挑戦することができる。
- 最初からはっきりした目標と道筋が明らかでないときも、学んでいるうちにしだいに自分たちが何を目標としたいかがはっきりしてくる。
- 共に学ぶ人がいるとき、その人たちに自分の目標を知らせておくと、あなたが目標を達成することに支援してくれるもの。

水上スポーツの専門職の育成

- 海水浴場や砂浜があればどこでも楽しめるという特徴をもっている。
- 地域振興のために水上スポーツの指導専門職の能力を習得することを目指す。
- 専門職といっても、一日中職務に専念できるほどに普及していない。
- 週末に水上スポーツを楽しむ人たちの指導に専門的知識と技術をもって指導できることが求められている。
- 最近のスポーツ技術と器具の技術の進歩によって、水上スポーツはスピードを増しており、操作の技術も高度になっている。
- 組織的な訓練をしないと危険な場面が多くなっている。
- 指導者が身近に得られないときでも、学習者がお互いに学びながらその力量を向上していく方法が開発されている。
- したがって主体的に自分から積極的に学ぶことが大切。

あなたの夢はなにですか？

学習に先立って自分の夢を書き留めておきましょう。
今すべてを書けなくとも構いません。

	長期目標	
公式教育 修了時 (学生のみ)	中期目標	
この学習の 修了時	短期目標	
この学習の中 での目標	即時目標	

議論を活発にするために

- グループで作業するときに、議論が活発にならなかつたり、どのように参加してよいかわからない時があります。このようなときに「批判と非難」と「論理と倫理」の違いを知っていると議論に加わりやすくなります。
- 「批判と非難」はどのように違うでしょうか。
 - 自分の考えをグループで発表してみましよう。「批判すれども非難せず」とは?

- 「論理と倫理」はどのように違うでしょうか。
 - 自分の考えをグループで発表してみましよう。

- 次の4つの単語をローマ字で書いてみましょう。どのようなことに気づきますか？ 批判()と非難()、 論理()と倫理()
- 英語ではどのような単語が相当しますか
批判()と非難()、 論理()と倫理()

チーム学習とグループ学習

- 野球やサッカーなどすべてのスポーツではチームとしてのポジションの役割が決まっている。
- そのポジションを誰が努めるかは状況によって変化するのであって、個人が決まっているわけではない。
- 同期の人や同窓会の親しい友達と旅行に行くときは、役割を決めることはあるが、基本的には参加者は対等の役割である。
- チームとグループの違いを各自が考えて書いてみよう。

チーム学習での役割

- 「地域振興と水上スポーツ」の課題をチームとして学習し課題を解決するために、各自が役割を分担し、その役割を果たすことに専念する。
- 4人1チームの場合に次のページに司会、情報技術、記録整理、計画管理などの活動が示されているので、メンバーで役割の担当を決める。3人1チームの場合はさらにその次のページに示されている。
- 学習が進むにしたがって活動が増えたり、不要になったりするので、必要に応じて調整する。
- それでは自分たちがチームとして共に学ぶためにはどのような活動が大切かを表で確認する。
- チーム学習に必要な活動がはっきりしたら、それぞれの役割を決めて自分の活動を確認しよう。

4人が1チームの場合の役割

1. 司会 音読確認

- ・ 講座で学習中のタイムキーパー
- ・ メンバーの意見を引き出す
- ・ 発言しやすい雰囲気を作る
- ・ 資料の内容を音読するか支援する
- ・ 活動内容で理解していない人がいないかを確認する

2. 情報技術

- ・ インターネットなどシステムの使用方法をチームに周知する
- ・ 情報機器を駆使して資料をリサーチする
- ・ チームの他のメンバーの情報技術について支援する

3. 記録整理

- ・ メモを取り、共有資源である学習の記録を蓄積する
- ・ 学習状況について記録を他のメンバーと共有する
- ・ 記録から議論の食い違いを早期発見する

4. 計画管理

- ・ メンバーの出席や参加を管理する
- ・ 指導者からの連絡をメンバーに確認する
- ・ 学習の見通しを立てて計画を提案する
- ・ チーム運営の課題点をきちんと指摘する

3人が1チームの場合の役割

1. 司会 音読確認

- ・ 研修中のタイムキーパー
- ・ メンバーの意見を引き出す
- ・ 発言しやすい雰囲気を作る
- ・ 配布資料の内容を音読する分担者を支援する
- ・ 活動内容で理解していない人がいないかを確認する

2. 情報技術 管理

- ・ インターネットなどシステムの使用方法をメンバーに周知する
- ・ 情報機器を駆使して資料をリサーチする
- ・ チームの他のメンバーの情報技術について支援する
- ・ メンバーの出席や参加を管理する
- ・ 指導者からの連絡を全員に周知する

3. 記録整理 計画

- ・ メモを取り、共有資源である学習の記録を蓄積する
- ・ 学習状況について記録を他のメンバーと共有する
- ・ 記録から議論の食い違いを早期発見する
- ・ 活動内容で理解していない人がいないかを確認する
- ・ 学習の見通しを立てて計画を提案する
- ・ チーム運営の課題点をきちんと指摘する

原理の異なる2つの学び方

教師中心の教育での学び方

- 校舎教室をベースとした授業
- 教育者と被教育者の立場による教育
- 学年制と授業時間で教育組織の管理
- 授業終了後に評価しての到達度
- 対面コミュニケーションを重視する教育
- 教育の結果を教師が評価 (evaluation) して利害関係者に提供
- 教育に経費を掛けることを無条件で肯定
- 教育者が決める内容を重視
- ICTの限定された教育活用
- モバイル学習(特にスマホ)への無関心
- スマホの有害機能に対する防御的態度

学習者中心での学び方

- 職場・居住地をベースとする学習
- 同僚、学友の学びを共にする学習
- 協調自律学習による学習成果の組織管理
- 学習前に目指す目標を決めての学習成果
- 遠隔コミュニケーションによる学習集団
- 利害関係者が学習成果を評価するための情報 (assessment) の提供
- 費用効果を重視して経済的負担を軽減
- 学習者のニーズに基づいて決める内容
- ICTの進歩を前提とした全面的活用
- モバイル学習を前提とした日常的学習
- スマホの学習機能に対する積極的指導

原理の異なる2つの飛び方

(PDF資料の写真をクリックして下さい)

餌のエネルギーで飛ぶ鳥

太陽やエンジンのエネルギーで飛ぶ鳥

空中停止(ホバーリング)するハチドリ



ヒマラヤ越えをするツル
2分40秒以降



垂直に上昇するヒバリ
2分50秒以降



船と並行して滑空するカモメ(佐渡航路)



「かもめのジョナサン」【完成版】Kindle版
リチャード・バック著、五木寛之創訳

2部 水上スポーツを理解しよう

•水上スポーツの具体的な船型と種目

排水量型 伝統的な各種セーリングボート、シーカヤック、カヌー

水面滑走型 サーフィン、ウインドサーフィン、カイトボーディング
スタンドアップパドルSUP、スキムボード

水中翼浮揚型 カイトボーディングfoil、モス級foil、
ウインドサーフィンfoil

観戦して楽しむ海洋スポーツ：集客力は抜群に高い

アメリカ杯挑戦世界シリーズポーツマス戦 America's Cup

挑戦艇シリーズ福岡戦 Fukuoka Louis Vuitton Cup

水上スポーツの船型

<p>排水量型</p>		<p>木や船体を浮かべたときに、それが排水した水の量の重さだけ浮力を生じる原理を利用している</p>
<p>水面滑走型</p>		<p>底の平らなものを早く動かすと水面を滑走するという原理を活かしたもの</p>
<p>水中翼浮揚型</p>		<p>水中に翼の形をしたものを入れて速く動かすと揚力を生じるという原理を利用している</p>

推進力は何か

人 力			パドルを使用して、人力で推進する。
水面落差			波や溪流の落差で上位の位置から下位の位置を目指して降下する。
風力帆走			風をセールに受けることによって生じる推進力を利用している。
空中牽引			空中に展開している凧によって牽引される力を推進力としている。

水上スポーツをどのように分類するか

	排水量型	水面滑走型	水中翼浮揚型
人 力			
水面落差			
風力帆走			
空中牽引			

- ①各種セーリングボート、②シーカヤック、カヌー
③サーフィン、④ウインドサーフィン、⑤カイトボーディング
⑥スタンドアップパドルSUP、⑦スキムボード、⑧モス級ホイル、
⑨カイトボーディングフォイル、⑩ウインドサーフィンフォイル

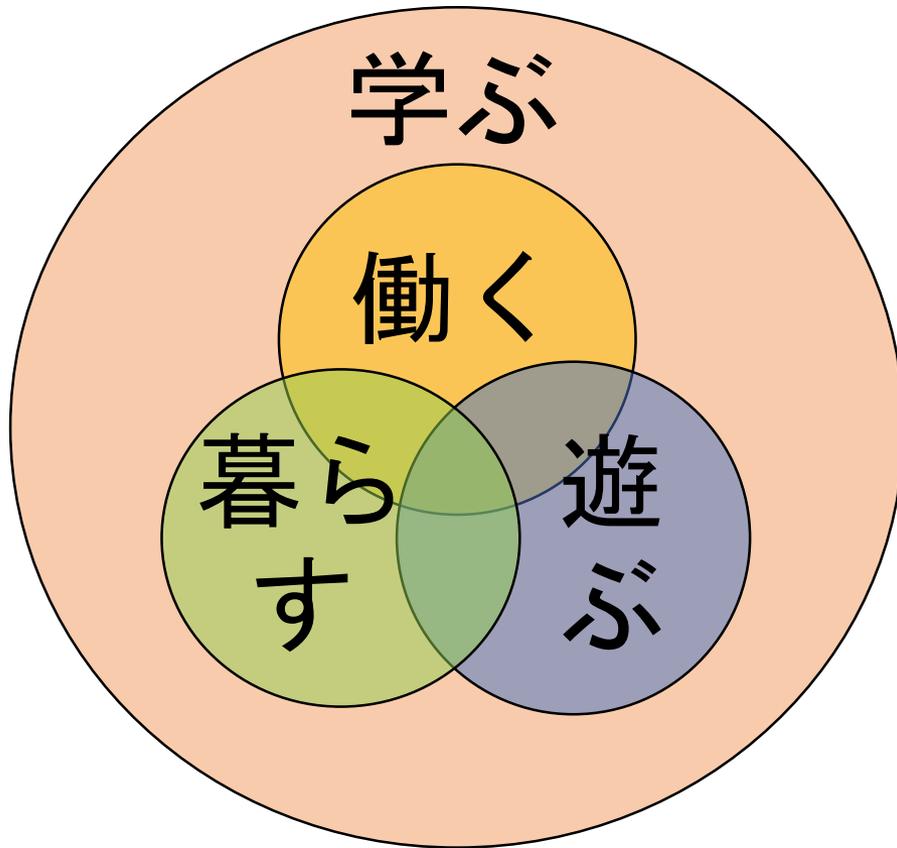
水上スポーツ指導の副業専門職とは

- 水上スポーツは自然の中でのスポーツであり危険を伴うので、専門家の指導が求められる。
- 海を職場としている漁師は気象や海象や海上安全についての専門家であるので、その知識を十二分に活かすことが重要である。
- 水上スポーツを誰でも楽しむことのできる場を海浜地域の至る所に設けることができる。
- 海浜地域の活性化のためには漁業従事者、地域産業の従事者などの副業専門職としての資格を確立する必要がある。
- 水上スポーツは産業として大きな市場を生み出す可能性があるので積極的に水上スポーツ産業の人材を育成する必要がある。

3部 学びを組織化しよう

- 情報社会では働く内容、暮らす環境、遊びの形態もが変化している。
- 有意義に過ごすためにはいろいろなことを学ばなければならない。
- 教育は組織的に行われてきたが、学ぶことは私事として扱われた。
- 自ら学んだ成果が仕事で明確に意義づけられていない。
- 教育費が高騰している現状では、情報社会に適した学習を基本とする制度が必要である。
- 専門職はその能力が社会的に認証されることが必要である。
- 専門職業能力として学習成果を認証する制度が整備されつつある。
- 国際規格ISO29990は学習サービス業の質保証を目指している。
- 国内では中央職業能力開発協会JAVADAの職業能力評価基準³⁶がある
- ただし水上スポーツ専門職の職業能力はまだわが国では明確ではなく、これから開発が望まれる分野である。

生涯にわたる学習



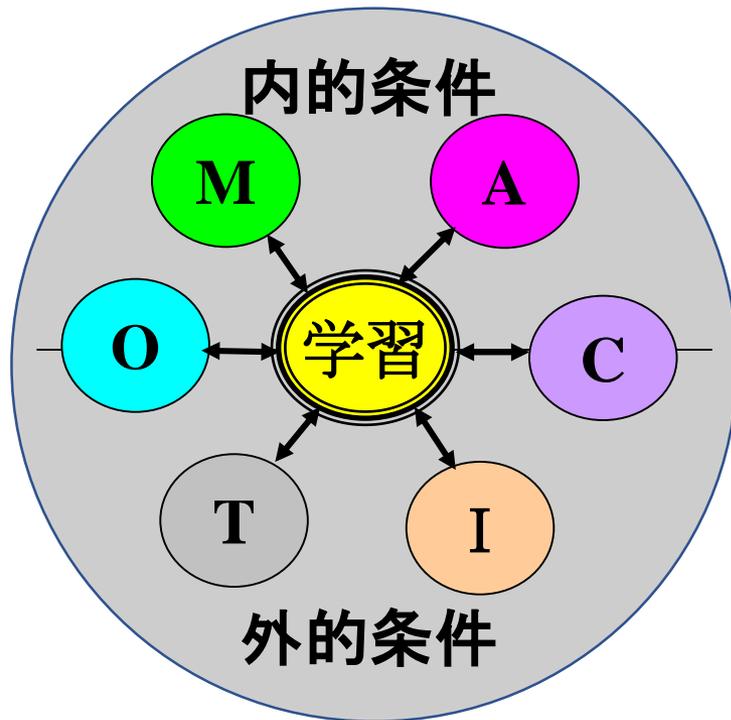
あなたの立ち位置はどこですか
左の図にプロットしてメンバーに
紹介しましょう。
理想の位置(○)と現実の位置(△)

どのように学ぶ環境を整えますか

MACITOモデル

LE

制約（時間，予算，施設，設備，法令など）



M:学ぶ意味

A:学ぶ活動

C:学びたい内容

I:学ぶための情報、話し合い

T:学ぶための用具や技術

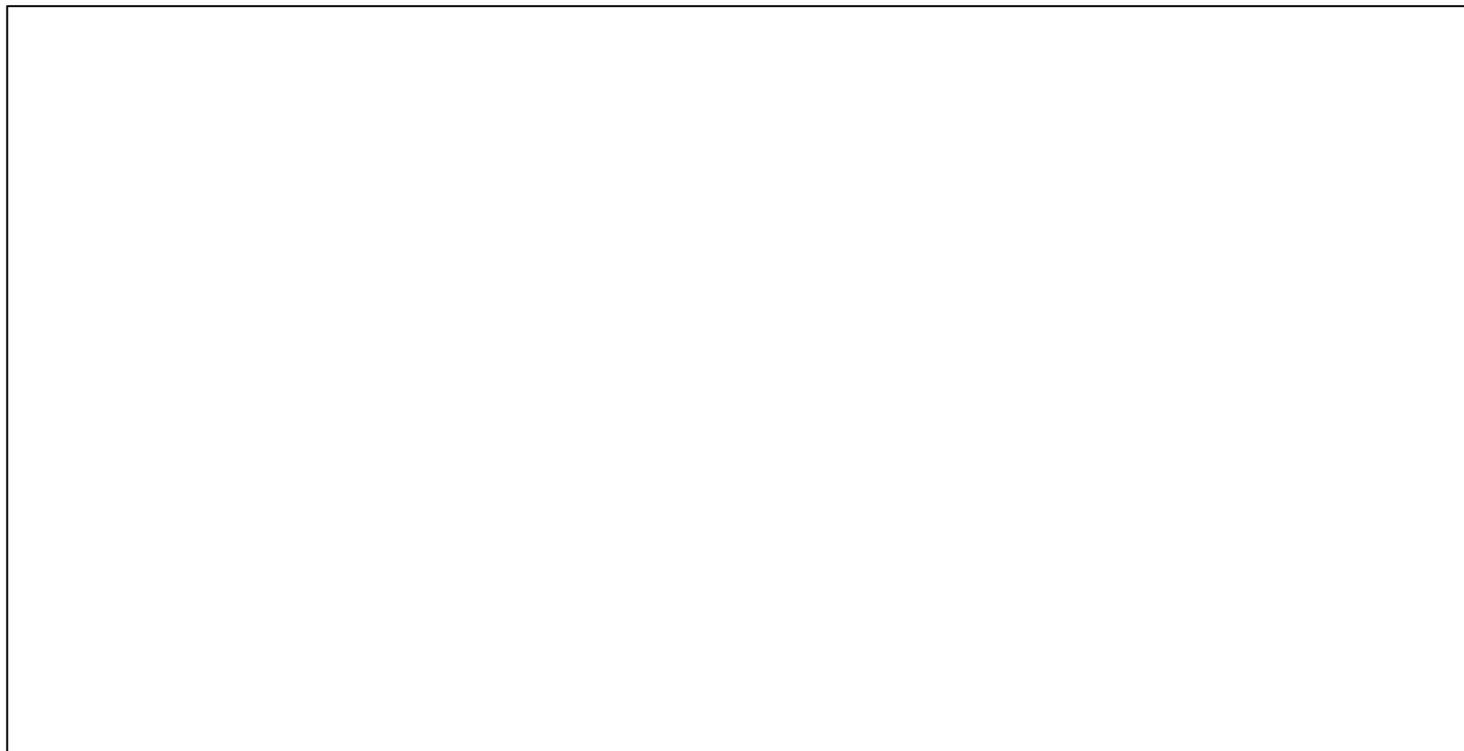
O:学んだ成果

LE:学習する環境

あなたの今の学びの環境を記述してみましよう

	構成要素	具体的な内容
M：学ぶ意味	学ぶ目標、意図は何ですか	
A：学ぶ活動	どんな活動をしていますか	
C：学ぶ内容	何を学んでいますか	
I：情報、相互作用	どんな情報と交流が必要ですか	
T：技術、用具	PC、スマホ、模造紙、付箋紙など	
O：学習成果	学習成果を専門職能として認知されたいこと	29

今日の学習の成果として専門職能として社会的に認めてほしい能力はなにか。学ぶ立場から学習成果の認証を求めることが大切である。



この学習材の研究開発にはつぎのような資金が投入されました。

提供者

日本学術振興会科学研究費補助金 担当：京都教育大学
課題番号 26350277 代表者：西之園晴夫(京都教育大学名誉教授)

特定非営利活動法人学習開発研究所(略称：ILD)
職業能力開発事業費 代表者：西之園晴夫

株式会社ワークアカデミー
教育開発事業費(未定)

協力

日本シティサップ協会 代表者：奥谷崇
アウトドアショップ游星舎 代表者：西木真央